

① 研究課題名：脈絡膜転移に対する放射線治療の臨床成績

② 研究の目的：

脈絡膜は悪性腫瘍の眼への転移の中で一番頻度が高い部位であり、視覚障害につながります。このため視力の維持や腫瘍の局所制御を得るために緩和治療を行うことがあります。脈絡膜転移への緩和治療において、最も一般的なのが放射線治療です。近年は画像誘導下放射線治療（Image-guided radiotherapy:IGRT）等の普及により、放射線治療の精度は大幅に向上しており、その治療成績も注目されています。しかし、脈絡膜転移の症例数は少なく、その治療成績に関する大規模な報告は少ない状況です。今回の研究は、症例数の少ない脈絡膜転移に対する放射線治療の治療効果を調査するものです。

③ 研究期間：西暦 2021年 2月 ～ 2021年 12月 31日

④ 研究責任者

研究責任者：名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線科 丹羽正成

研究実施施設：名古屋市立東部医療センターはじめ本研究に参加する施設

⑤ 研究の対象：

西暦 2000 年 1 月から 2020 年 7 月までに脈絡膜転移と診断され、放射線治療を実施した方

⑥ 研究の方法：

研究責任医師は、診療録より以下の情報を収集します。収集した情報は、カルテ ID 及び氏名等の個人情報削除され、被験者識別コードが付番され匿名化された後、研究事務局（名古屋市立大学大学院医学研究科 放射線科 丹羽正成）へ送信されます。

（収集される情報）

治療時の年齢、性別、既往歴、照射時パフォーマンスステータス、原発腫瘍情報（部位・病理情報・初回診断日・放射線治療時点での原発部位の制御有無や他部位への転移状態）、脈絡膜転移部への照射前情報（脈絡膜転移診断日とそれに伴う症状詳細、左右の転移部位、視力、病変部位、腫瘍径や腫瘍の厚み）、放射線治療に関する情報（照射方法、照射期間、処方線量情報、CTによる肉眼的腫瘍の有無、急性期ならびに晩期有害事象発生の有無）、照射前・照射時・照射後の他併用療法の実施情報、放射線治療後の予後に関する情報（症状改善の有無、視力、画像所見等による治療効果判定情報、照射部位の局所制御の有無、再発の有無等）

⑦ 研究成果の公開

本研究の結果は学会や医学雑誌等で公表される予定です。

⑧ 個人情報の保護

この研究で収集した情報を名古屋市立大学大学院に提供する場合、個人を特定する情報（あなたのお名前、ID、住所等）は含まれませんので、あなたの個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたの情報を使用してほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。あなたの情報を廃棄いたします。廃棄のお申し出をされた場合であっても、あなたが不利益を受けることはありません。

⑨ 利益相反

本研究に係る利益相反はありません。

⑩ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	放射線治療科	高間夏子 TEL：052-721-7171（代表）